

6.

教育プロジェクト

- 1) 国際教育交流プログラム
「AIT ワークショップ」
- 2) 専任・特任教員担当講義

1) 国際教育交流プログラム「AIT ワークショップ」

開発とジェンダーの問題をグローバルに研究する教育プログラム

16年目を迎える国際教育交流プログラム

AIT ワークショップは、2001年に本学ジェンダー研究センター（2015年度からジェンダー研究所）所属教員と、アジア工科大学院大学（Asian Institute of Technology、通称 AIT）ジェンダーと開発専攻の日下部京子教授らの尽力によって始められた、国際教育交流プログラムである。

大学院博士前期課程「開発とジェンダー論コース」において、開発とジェンダーという核となる主題に関して、ジェンダーの理論的枠組みを習得するとともに、フィールドワークを通して開発の現場での知見を得、それらを総合する学びの場を提供するために開始された。

第3回までの実績により、2004年12月には、本学とアジア工科大学院大学との間で、「ジェンダーと開発分野」に関する大学間学術交流協定が結ばれた（当協定は2009年に交流領域の拡充が図られ、2013年には、2004年の協定で1か月以内だった交換留学生制度が1年以内に改訂され細目も定められた）。

第4回以降は、協定に基づき、ジェンダー研究センター（研究所）と AIT・環境資源開発研究科により、タイ AIT で実施されるワークショップへの本学博士前期課程院生を主とする派遣と、AIT 大学院生の日本国内での研修受入による、大学院生を主体とした研究交流事業をほぼ毎年実施している。

2012年度から、AIT ワークショッププログラムは、ジェンダー研究センターが従来提供してきた大学院博士前期課程科目「国際社会ジェンダー論演習」として単位認定が始まった。2013年度はサマープログラムを活用して AIT 院生の日本国内研修を実施し、2014年度からは大学院前期課程科目「フィールドワーク方法論」を国内事前研修として取り入れ、以上の経緯を経て、本年度で15回目を迎えた。

グローバルなフィールドでの理論的検討と実践的学習

本教育プログラム（「国際社会ジェンダー論演習」）の目的は、開発とジェンダーにかかわるグローバルな課題群の分析方法や視座、海外におけるフィールド調査の基礎を、実践的に学習することにある。

大学院講義の事前学習（関連機関での調査）、調査して得た知見の英語によるプレゼンテーション、報告書作成という一連の調査研究の研修を通して、修士論文作成のための技能を習得する。加えて、英語によるインタビュー、プレゼンテーション、論文執筆の訓練機会にもなる。

このような充実したプログラムを通して、参加者は開発の問題をジェンダー視点から考察することの意義を皮膚感覚と理論的観点からより深く把握することができるようになる。また AIT に集まるアジア各国の院生の熱意ある議論スタイルや問題関心の多様さから刺激を受け、研究手法や語学のブラッシュアップへの動機づけを得る。その結果、研究者としての議論の組み立て方や調査方法、研究アプローチについて際立った効果が参加者には見られるのであり、本プログラムは比類のない教育効果をもっていると言える。

■AIT ワークショップ過年度実績

実施年度	研修テーマ
2001	Gender and Development ジェンダーと開発
2002	Gender, Work and Globalization ジェンダー、労働、グローバリゼーション
2003	Women, Globalization and Home-based Work 女性、グローバリゼーション、在宅労働
2004	Female Migrant Workers' Rights in Thailand タイにおける女性移動労働者の権利 【協定締結】
2005	Gender and Development in Thailand: Labor rights and violence against women タイにおけるジェンダーと開発：労働者の権利と女性に対する暴力
2006	〔実施せず〕
2007	Gender, Rights and Empowerment ジェンダー、権利、エンパワメント
2008	Thailand-Japan Interactive Research Actions by Using Gender Perspectives ジェンダー視点によるタイ・日本相互研究
2009	Gender and Policy: Through Thailand-Japan Interactive Analysis ジェンダーと政策：タイと日本の相互分析を通して
2010	Gender and Social Change: Comparative Analysis of Thailand and Japan ジェンダーと社会改革：タイと日本の比較分析
2011	Gender and Disaster ジェンダーと災害〔特別プログラム：本学でのシンポジウム開催〕
2012	Sexuality セクシュアリティ
2013	Global Justice, Women's Health and Prostitution グローバル・ジャスティス：女性の健康と売春
2014	1) Sexuality, 2) Gender and Poverty, 3) Education and Empowerment 1) セクシュアリティ、2) ジェンダーと貧困、3) 教育とエンパワメント
2015	Labor, Sexuality and Empowerment 労働、セクシュアリティ、エンパワメント
2016	Labor and Association from Gender Perspective ジェンダー・パースペクティブから見た労働と組織

▶ 2016 年度 AIT ワークショップ実施概要

「ジェンダー・パースペクティブから見た労働と組織」をテーマに実施

【概要】

「Labor and Association from Gender Perspective」をテーマにした 2016 年度の AIT ワークショップは、国内事前研修（大学院博士前期課程科目「フィールドワーク方法論」4/13～7/20）、AIT 院生 2 名の受入（8/29～9/5）、タイ AIT での研修（9/10～9/17）、研修報告会（11/30）、報告書作成というプログラムで行なわれた。

日本とタイでのフィールドワーク実践によって、参加院生のフィールドワーク力は鍛えられ、その過程での調査や討議によって各自の研究テーマの深化に大きく貢献したものとなった。

【プログラム統括】板井広明（ジェンダー研究所特任講師）

【コーディネーター】バラニャク・ズザンナ（博士後期課程ジェンダー学際研究専攻）

【履修生】佐藤貴恵（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）

矢萩まりこ（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 開発・ジェンダー論コース）

崎濱奏子（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 地理環境学コース）

包夢真（博士前期課程ジェンダー社会科学専攻 生活政策学コース）

【AIT からの研修生】Chitrakshi Vashisht（修士課程）

Khamnuan Kheuntha（修士課程）

◇全プログラム日程

日程	内容
2016 年 4/13～7/20	フィールドワーク方法論（全 14 回） 講師：大橋史恵（武蔵大学准教授）
8/29～9/5	AIT 院生 2 名来日研修
9/10～9/17	タイ AIT 研修
10/19	国際社会ジェンダー論演習講義 講師：橋口道代（JICA）
11/30	タイ研修報告会  国際社会ジェンダー論演習講義 講師：菅野琴（元 UNESCO）
2017 年 1 月	報告書作成

▶ 2016 年度 AIT ワークショップ研修報告

国内事前研修

2016 年度の AIT ワークショップは「ジェンダー・パースペクティブから見た労働と組織 (Labor and Association from Gender Perspective)」をテーマに、博士前期課程ジェンダー社会科学専攻の 4 名が参加した。大学院科目での国内事前研修は、大橋史恵講師 (武蔵大学准教授) による「フィールドワーク方法論」授業である (4/13 (水) ~7/20 (水) 全 14 回)。資料の探し方や扱い方、細かな研究倫理の問題等をはじめ、論文における引用の仕方や文献リストの作り方、フィールドワークのプランニングや実践における注意点といった基礎的事項が講じられた。藤田結子・北村文編『ワードマップ 現代エスノグラフィー: 新しいフィールドワークの理論と実践』(新曜社、2013 年) および平井京之介著『村から工場へ: 東南アジア女性の近代化経験』(NTT 出版、2011 年) を購読。フィールドワーク実習として、アジア女性資料センターを 2 度訪問している。

研究交流研修

8/29 (月) ~9/5 (月) には、Chitrakshi Vashisht (修士課程)、Khamnuan Kheuntha (修士課程) の 2 名が AIT から来日して研修を行なった。IGS を含めたお茶大内の施設などの訪問、熊谷圭知教授特別ゼミ (大学院) 参加、アジア女性資料センターと代々木タイフェスティバルでのフィールドワークなどを行なった。



9/10 (土) ~9/17 (土) は上記 4 名の院生がタイにある AIT での研修にのぞんだ。タイに滞在中は、JICA、IOM Thailand Office、Empower Foundation、LPN Foundation、Thai Transgender Alliance、OXFAM Thailand Office を訪問・調査し、AIT 選択授業や日下部ゼミ「フェミニストはどのようにして調査にアプローチするか」、お茶大-AIT ジョイント・セミナーに出席し、研究報告などをこなした。

研修報告会

11/30 (水) 11 時 45 分~13 時には板井広明ジェンダー研究所特任講師の司会のもと、バラニャク・ズザンナ博士課程院生・コーディネーターが参加して研修報告会を開いた。参加院生 4 名が各自分担箇所を報告し、その後、質疑応答を行なった。いずれの院生も、取材先の個人情報の保護や取材のまとめ方など、前期に受講した「フィールドワーク方法論」の授業で得たことが役立ったと話している。また、タイの JICA 事務所や現地のシェルター、セックスワーカー向けのエンパワー事務所、持続可能な開発に基づく支援を行なう施設などの調査が、修士論文を書く上で必要な取材の機会となったことに加え、ワークショップのプログラムは、それぞれの研究対象の問題点などを明確化する一助となったとのことだった。同世代の AIT の学生とのジョイント・セミナーでは、さまざまなアプローチについて学び、新たな知見を得ることができ、かつ活発な議論が交わされていたことから刺激を受けた様子である。

研修報告会での発表をもとにして、現地での調査や授業風景などの画像、現地情報などを取り入れた報告書を 2017 年 1 月に完成させた。

◇フィールドワーク方法論（全 14 回）講師：大橋史恵（武蔵大学准教授）

回	内容
第 1 回	オリエンテーション
第 2 回	資料調査の方法（図書館での演習）
第 3 回	研究と論文執筆のルール
第 4 回	AIT ワークショップテーマ決定 文献講読（1）『現代エスノグラフィー』第 1 部
第 5 回	文献講読（2）『現代エスノグラフィー』1 部続き、『村から工場へ』序章・1 章
第 6 回	文献講読（3）『村から工場へ』1 章・2 章
第 7・8 回	フィールドワーク実習（@アジア女性資料センター）プレ調査
第 9 回	文献講読『村から工場へ』3 章・4 章
第 10 回	文献講読『村から工場へ』5 章・終章
第 11 回	フィールドノートの書き方・問いの発見
第 12・13 回	フィールドワーク実習（@アジア女性資料センター）本調査
第 14 回	授業のまとめ

◇AIT 生来日研修

実施日	内容
8/29	成田到着 グローバル協力センター、グローバルリーダーシップ研究所訪問歓迎会
8/30	大日本水産会、NPO 法人レインボーアクション訪問
8/31	熊谷圭知 お茶の水女子大学教授特別ゼミ
9/1	Human Rights Watch Japan 訪問
9/2	ショートレクチャー・AIT 生による研究報告会
9/3	自由行動
9/4	送迎会
9/5	帰国

◇タイ研修日程

実施日	内容
9/10	バンコク到着
9/11	アユタヤ観光、歓迎会
9/12	AIT 日下部先生ゼミ「フェミニストはどのようにして調査にアプローチするか」受講
9/13	AIT 選択授業受講、お茶大＝ AIT ジョイント・セミナー
9/14	JICA、IOM Thailand Office、Empower Foundation 訪問調査
9/15	LPN Foundation 訪問調査
9/16	Thai Transgender Alliance、OXFAM Thailand Office 訪問調査
9/17	帰国

◆ AIT ワークショップ参加大学院生の声 (AIT ワークショップ報告書から抜粋)

AIT ワークショップでの経験は参加院生にとって多大な刺激となったことが、下の感想文面から伝わってくる。また、AIT 院生から寄せられたコメントからも、啓発的な研究交流であったことがわかる。

今回、様々な団体を訪問させていただき、タイ社会だけでなく世界の問題を多様な視点から考えることができました。・・・AIT での滞在では、授業や学内での生活が体験でき、とても刺激的でした。・・・授業では、学生が英語を使って積極的に意見を戦わせており、自分の学習態度を見直す必要を強く感じました。英語力や知識量、学習態度など、これから改善すべきことが山積みですが、この反省を忘れないように今後の学業に励みたいと思います。

(M1 佐藤貴恵)

お会いしたどの方も、意欲的に問題解決に取り組み、常に思考し続けるタフな方々ばかりでした。アジア工科大学院で出会った研究者たちは皆、常に発言を求められるよりも先に発言し、高い関心を持ってその場その場の課題に取り組んでいるように見受けられました。かれらの語学力・コミュニケーション能力はさることながら、やはりその姿勢から非常に学ばされる点が大きく、励みにもなりました。

(M1 崎濱奏子)

実習全体を通じてコミュニケーションの重要性というものを思い知ることになりました。・・・たどたどしい英語であってもとにかく発言することで、周囲の友人が助けてくれたり、相手の方が汲み取ろうとしてくれたりしたため、話すという意志を表示することが大事だと改めて感じました。また、今回の研修では、私たちが今後修士論文を作成する際に必要となる準備、調査、報告という一連の過程を実体験することができました。・・・実習で学んだ反省すべき点・やって良かった点を今後の研究に活かしていきたいです。

(M1 矢萩まりこ)

AIT の授業では、同世代の学生たちの質問や意見を出す反応のスピードに驚きました。ゼミで活発な発言に刺激を受けて、独立した精神で、常に思考している頭脳になるのは研究者というのがまさにそういうものではないかと痛感しました。

(M1 包 夢真)

The entire exchange workshop has been very informative and provided a great learning experience. Every visit/event organized under this workshop contributed to my knowledge.

ワークショップ全体を通して、貴重な学習経験を積むことが出来ました。調査やゼミへの参加、報告会などのプログラムから、新しい知見を得ることが出来ました。

(AIT M2 Chitrakshi Vashisht)

2) 専任・特任教員担当講義

《人間文化創成科学研究科博士後期課程ジェンダー学際研究専攻》

足立眞理子（教授）

ジェンダー政治経済学（前期）

ジェンダー政治経済学演習（後期）

フェミニスト経済学（前期）

フェミニスト経済学演習（後期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

申琪榮（准教授）

前期（サバティカル）

比較政治論（通年不定期）

ジェンダー学際研究論文指導（通年）

ジェンダー学際研究報告（基礎）（通年不定期）

ジェンダー学際研究報告（発展）（通年不定期）

《人間文化創成科学研究科博士前期課程ジェンダー社会科学専攻》

足立眞理子（教授）

ジェンダー基礎論（前期）

開発経済学（前期）

開発経済学演習（後期）

申琪榮（准教授）

フェミニズム理論の争点（後期）

フェミニズム理論の演習（後期）

ジェンダー社会科学論（通年）

板井広明（特任講師）

国際社会ジェンダー論（後期）

《グローバル理工学副専攻（博士前期課程・後期課程共通）》

仙波由加里（特任リサーチフェロー）

Essential Ethics for Global Leaders（担当：石田安実・グローバル人材育成推進センター特任准教授）

・ Who should decide? Dax's case (Autonomy vs. Beneficence)（第3回：6月28日）

・ Donor-conceived people's right to know donor identity (Justice and non-maleficence)（第4回：7月5日）

《学部》

足立眞理子（教授）

文教育学部 ジェンダー2 グローバル経済とジェンダー（後期）

文教育学部 グローバル化と労働（1学期）

申琪榮（准教授）

比較ジェンダー論（前期／後期）

《英語によるサマープログラム 2016》

仙波由加里（特任リサーチフェロー）

Course 1: Gender in Japan and the Globalizing World（担当代表：小林誠・本学教授）

・ Reproductive Medicine and Gender（7月18日）